



あの街から学ぶ しおじりの明日

平成22年度常任委員会 視察報告

平成22年度では、総務環境・福祉教育・経済建設の3つの常任委員会が、次のとおり各地の先進事例の視察を行いました

総務環境委員会

平成22年10月18日～20日

■総合あんしんセンター (高知市)

①保健所機能の統合②初期救急医療施設の併用③医療関係団体との協働④防災関連部署と消防局、保健所、日赤との連携を行う。平成9年に市民病院が閉院し、その後中核都市に移行したことにより、保健所の設置が必要となり、また消防司令室の更新も必要となったことから総合防災センター機能も付加しました。医師会や日赤が参画し、各種機能が充実され、さらに休祭日の診療も行われています。



総合あんしんセンター

■高知清掃工場 (高知市)

処理能力は、ごみ焼却炉(220t/24時間×3基) 灰溶



高知清掃工場

融炉(40t/24時間×2系列) 最大発電量9kwは清掃工場の電力を賄うほか、充電もしている。現在溶融炉は停止している。余熱利用として発生する熱は、隣接の余熱利用施設のスポーツジムやプール等へ供給している。ごみ収集は無料で、回収は高知方式といわれ、市民に分別管理等の協力をいただいているとのことでした。

■機能別消防団員 (松山市)

①郵政公社職員の消防団員起用、情報の提供や切迫した危険なものに対しての避難広報等②大学生防災サポーターの消防団員起用、災害時の人的動員力の活動が主な役割③事業所消防団員を起用し空洞化が生じている地域を補完するなど工夫をこらし機能充実が図られていました。

福祉教育委員会

平成22年8月2日～4日

■重要伝統的建造物群保存地区「大内宿」 (福島県下郷町)

昭和56年保存地区に選定され、全長約500メートルの街道の両側に、茅葺寄棟造の民家が整然と並び、各家々では蕎麦や民芸品等が販売され、年間100万人以上の観光客が訪れる。住民と行政が一体となって町並み保存の取り組みが行われていました。



町並み保存されている大内宿

■生涯学習の取り組み (福島県喜多方市)

中央公民館事業として企画された「知的のんべえのための酒づくり講座」。市内5つの酒蔵で酒の仕込みに携わり、その酒を持ち帰れるとのこと。毎年、県内外から100名が参加

し、地域ブランド発信にも効果があるとのことでした。

■介護予防事業 (福島県喜多方市)

介護予防のために太極拳を取り入れた体操を考案し、市民300人以上が取り組んでいる。平成21年にその効果を検証したところ、この体操をしていた人たちの新規介護認定発生率は5・9%で、体操をしていなかった人たちの22・6%と比べ大きな効果があったとのことでした。



介護予防のための太極拳体操

■市民活動 サポートセンター事業 (福島県郡山市)

NPO、ボランティア、地域づくり等の団体活動を支援するために、「コピー機や会議室等を設け、団体同士の交流や情報提供、また相談やスタッフ派遣等を行っているとのことでした。